

# 芭蕉布つくりまSHOW!

特徴的な工程が続く芭蕉布づくり。ここでは一部の作業のみをご紹介します。どれも大変！だから楽しい!! 芭蕉布職人は今日も手を動かしています。

\*本書では「喜如嘉の芭蕉布」(→P3)の製法をご紹介しますが、芭蕉布のつくり方や糸芭蕉の部位、道具などの呼称等は作家や地域によって異なります

## もっと詳しく知るなら…

各工程の解説は大宜味村立芭蕉布会館で販売中の冊子「喜如嘉の芭蕉布」(喜如嘉の芭蕉布保存会)をご覧ください。



## 糸芭蕉の収穫 とうりし・とうりぎ

約2～3年間、手塩にかけた株を切り倒す!

大体11月～翌2月頃、冬に行われます。外皮が茶色く枯れた株を収穫。株を切り倒す「とうりし」の後は、葉鞘を1枚ずつ剥がす「とうりぎ」へ。剥がした葉鞘は表側と裏側、2枚に裂きます。布用の繊維がとれるのは表側から。

1. 2. 切り倒した株の葉鞘にナイフで切り込みを入れて(口割)から1枚ずつ剥がす。切り込みから表側と裏側の2枚に剥ぐ。
3. 炊きやすいように束状にまとめる
4. 部位ごとに分けたとうり(ここでは繊維がとれる葉鞘のこと。抽出後の糸芭蕉繊維の呼び名でもある)。左からウワーハー、ナハワー、ナハグー、キヤギ



## 剥がしたとうりを4種類に分別

偽莖の外側から中心部にいくほど細かい繊維がとれます。とうりは繊維のしなやかさにより、ウワーハー、ナハワー、ナハグー、キヤギに分類。ウワーハーは小物用の生地に使うなど、つくりたいものに合った部位を用品います。



## 芭蕉紙づくりが卒業テスト!?

大宜味村で唯一の小学校、大宜味小学校では毎年、児童たちが卒業証書を手づくりしています。紙の原料にしているのはなんと糸芭蕉! 3日間もかけて、芭蕉紙を手すきで仕上げます。明るい色の芭蕉紙を目指して村の名産品、シークワサーの葉と枝も染色に使用。大宜味っ子たちは地域色たっぷりの卒業証書を自作して、晴れて卒業式を迎えることができます。(みんなそれぞれ個性的な仕上がりで全員、100点満点◎)

